

「早稲田大学履歴書」記入要領

◆「早稲田大学履歴書」は原則としてＰＣ等で入力していただくとともに、丁寧にお取扱ってください。

1. 年の表記

年はすべて西暦で記入してください。

2. 氏名欄

①署名および押印は不要です。

②日本国籍の方は、戸籍の通りに記入してください。

英字氏名はパスポートと同じアルファベット表記を記入してください

(例)「大野」の表記が「OHNO」か「ON0」なのかはパスポートに合わせる。

③日本以外の国籍のみを有する方の氏名の表記方法

・「氏名」欄は、漢字または英語で姓名を記入してください。

※英語で記入する際は、パスポートと同じアルファベット表記を記入してください。

※本学では、Á á Â â Ã ã Ä äなど登録できません。

姓の欄にファミリーネーム、名の欄にファーストネーム ミドルネームの順に記入してください。ミドルネームを省略する場合は、ピリオド【.】を使用してください。

・「英字氏名」欄は、氏名欄にアルファベットで記入された方は記入不要です。

・「フリガナ」欄はカタカナで記入してください。

④戸籍上の姓名とは異なる姓名（旧姓や通称名）を使用する場合は、『通称名（本名）』の順に記入してください。

3. 性別欄

記入は必須ではありません。未記入の場合も、選考において不利益となることはありません。

なお、正式採用された場合は雇用管理上、戸籍上の性別情報が必要となります。この情報は、採用時にご提出いただく住民票、パスポートのコピー、在留カードのコピー等により確認します。

4. 写真貼付欄

履歴書には写真を貼付してください。英文・和文（英文の翻訳）両方の履歴書を提出する場合、写真は和文履歴書に貼付してください。

5. 国籍欄

国籍を記入してください。

6. 在留資格欄

本学への着任にあたって有効となる在留資格とその在留期限を記入してください。資格外活動許可を要する在留資格の場合は、資格外活動許可の有無も記入してください。

※嘱任決定後に在留資格申請を行う場合は空欄としてください。

7. 学歴欄

①高等学校入学以降の学歴をすべてもれなく記入してください。

②入学、卒業・修了等の年月日を正確に記入してください。

なお、本学の学籍を有したまま本学の教員に着任することは原則できませんので、履歴書作成時点で本学の学籍を有する方は、卒業・修了・退学年月を記入してください。

③大学院の課程について、早稲田大学大学院では次のように課程の名称が変遷しています。

時期	課程の名称
戦後の新制度 ～ 1976年3月	修士課程・博士課程
1976年4月 ～ 1985年3月	博士前期課程・博士後期課程
1985年4月 ～ 現在	修士課程・博士後期課程

④博士学位名は、受領した年によって以下の通り表記が異なります。

また、課程博士・論文博士のいずれかを選択してください。

受領時期	表記
1991年6月まで	〇〇博士
それ以降	博士（〇〇）

⑤博士学位受領年月日は、「日付」まで正確に記入してください。

8. 職歴欄

①「開始（就職）年月」「終了（退職）年月」をもれなく正確に記入してください。

本学への着任に伴い退職する場合は、現職の「終了（退職）年月」欄に退職予定を必ず記入してください。

②2013年4月1日以降の早稲田大学における職歴について、TA、RA、臨時雇用等も含めてもれなく正確に記入してください。

③大学や学校で講師をされている場合は、常勤・非常勤の区別を明確に記入してください。

④企業・研究所等に勤務されている場合は、その役職名・肩書等を正確に記入してください。

⑤すでに退職されている場合は、その退職年月を正確に記入してください。

⑥「現職」欄について、複数の大学や学校、研究所等に勤務されている場合は、代表的な現職を記入してください。退職の予定が決まっている場合は、現職の「終了（退職）年月」欄に退職予定年月を必ず記入してください。

なお、現職が常勤職で、本学の常勤職に採用される場合は、本学着任時に現職を退職している必要があります。

⑦日本学術振興会特別研究員の経歴をお持ちの方は、すべて記入してください。

⑧本学では、助手の学外兼職は原則として禁止されていますが、助手退任後に他大学の教員になるためには非常勤講師歴を持っている方が採用されやすいという実情を考慮して、以下の要件を満たす場合に限り、学外兼職を認めています。

- ・職務の内容が本大学助手としての本務に支障をきたさず、かつ、社会的にみて大学の品位をおとしめるものでないこと。
- ・本務と特別の利害関係発生恐れがないこと。
- ・授業担任時間が週4時間以内であること。
- ・学術院教授会、研究所もしくはセンターの管理委員会、演劇博物館または博物館協議委員会が適当であると認めたものであること。

したがって、

- ・助手の採用に際してすでに他大学等の非常勤講師に従事している場合、職歴欄にはその職名を記入してください。
- ・助手着任前に退職する場合は、退職予定年月を明記してください。
- ・助手着任後も引き続き就任する場合は、週当たりの授業担任時間を明記してください。また、助手着任後すみやかに当該箇所事務所に届け出てください。

(例) ○○大学非常勤講師(2019. 3. 31退職予定)

○○大学非常勤講師(週2時間担当)

9. 専門分野欄

別紙「専門分野一覧」より選んで記入してください。

10. 研究分野欄

具体的に記入してください。

実務家の方は「○○に関する実務」のように記入してください。

11. 使用言語欄

複数ある場合は列挙してください。

以 上

早稲田大学履歴書【記入例】

No. 1

※年号はすべて西暦でご記入ください

(2017年10月1日現在)

フリガナ	オオクボ	タロウ	性別	翻訳者氏名	写真貼付 ※画像の貼付可 4 cm×3 cm
英字氏名	Okubo	Taro	男		
氏名	姓 大久保	名 太郎			
生年月日	1975年1月1日 42歳	国籍	日本	TEL 03(3203)4141 携帯TEL 090(0000)0000	
現住所	〒169-0051 新宿区西早稲田1-1-1			在留資格	資格外活動許可 (有・無)
e-mail	taro@xxxxx.jp			在留期限	年 月 日

コメント [11]: 手書きの場合は、黒色のインクのボールペン等で記入してください。鉛筆書きは不可です。

学 歴 [高等学校入学以降を記入し、(入学・編入学)(卒業・修了・退学)等の区分を選択してください]						
1990年4月	〇〇県立△△高等学校				入学	
1993年3月	高等学校				卒業	
1994年4月	〇〇 学科				入学・編入学	
1998年3月	早稲田	大学	〇〇	学部	専修	卒業・退学
年 月						入学・編入学
年 月						卒業・修了・退学
年 月						入学・編入学
年 月						卒業・修了・退学
1998年4月	修士課程に該当する学歴(新制大学院修士課程・前期課程)				入学・編入学	
2000年3月	早稲田	大学	〇〇	研究科	〇〇 専攻	修了・退学
2000年4月	博士後期課程に該当する学歴(博士課程・後期課程)				入学・編入学	
2003年3月	早稲田	大学	〇〇	研究科	〇〇 専攻	修了・退学(満期・中途) 在学中
博士学位	取得学位名(課程・論文)	受領大学		受領年月日		
	博士(工学)	早稲田大学		2003年3月15日		

コメント [12]: 高等学校入学・卒業の学歴もご記入ください。

コメント [13]: 複数の修士課程の歴がある場合は、適宜行を追加のうえ記入してください。

コメント [14]: 課程・論文のいずれかに○をつけてください。

コメント [15]: 受領時期によって学位の表記が異なります。詳細は「教員任用履歴書記入要領」2ページを参照してください。

コメント [16]: 欄が不足する場合は、適宜行を追加のうえ記入してください。

職 歴 [職歴異動の場合は入社・退社、および身分・資格等を記入してください]		
※2013年4月1日以降に早稲田大学での職歴がある場合は、TA・研究補助者等のアルバイトでも必ずご記入ください。		
開始(就職)年月		終了(退職)年月
2003年4月～	㈱〇〇〇製作所 〇研究所研究員	～2007年3月
2005年4月～	△△△工業大学 〇学部 非常勤講師	～2007年3月
2008年9月～	早稲田大学 〇学部 非常勤講師(現在に至る)	～ 年 月
2007年4月～	㈱〇〇〇製作所 〇研究所主任研究員	～2010年3月
2010年4月～	□□□大学〇学部 専任講師	～2014年3月
年 月～		～ 年 月
現 職		現在に至る 終了(退職)予定年月
2014年4月～	□□□大学〇学部 准教授	2018年3月

専門分野[別紙より選択]	電子・電気材料工学
研究分野[詳しく記入]	電子工学、技術ジャーナリズム、技術経営
使用言語	母語: 日本語 講義実施可能言語: 日本語、英語

「教育研究業績」記入要領

- ◆「教育研究業績」は原則としてPC等で入力していただくとともに、丁寧にお取扱ってください。
- ◆業績は、項目ごとに直近のものから遡って時系列順に記入してください。
- ◆記載事項の分量に応じて各欄のスペースや枚数、行数は増やして構いません。
- ◆右上のNo. は、教育研究業績Ⅰ～Ⅳの通し番号としてください。
- ◆『昇任』の場合、現職位から現在までの間の教育研究業績のみを記入してください。

【教育研究業績Ⅰ：研究活動】

- ◆実務家の方へ：研究業績は純粋な研究論文等に限定することなく、著書・編書・論文・学会報告・専門分野に関する解説（判例解説・時事解説・草案解説等）・座談会・講演記録・調査報告等の別（共編・共著・共同作成の場合にはその旨）を示して、網羅的に記載してください。
- ◆該当する実績がない項目は「該当なし」と記載してください。
- ◆すべての項目が「該当なし」の場合でも、必ず提出してください。

1. 研究者情報

お持ちの場合は、ORCID、研究者番号、Researcher IDをご記入ください。

2. 著書

- ・単著・共著・分担執筆の別※、著書名／タイトル、執筆担当章・ページ、発行年月、発行元を明示してください
- ※表紙、奥付等に氏名が記載されている場合のみを共著とします。氏名が記載されていない場合は分担執筆として扱います。
- ※共著・分担執筆の場合、執筆担当ページを必ず記入してください。
- ・業績の最後に合計数を記入してください（昇任人事の場合は、現職位から現在までの合計数を記入してください）。

3. 修士論文・博士論文

- ・論文タイトル、発表年月、大学・研究科名を記入してください。

4. 論文

- ・学術誌へ投稿中の論文を記入する場合は、掲載が決定しているものに限りします。
- ・単著・共著の別、論文名、著者名、掲載誌・機関名、査読の有無、巻、最初と最後の頁、発表年月（西暦）を記入してください。
- ・共著者名は、著者名を論文に記載されている順序で全て記載してください。その際、自身の名前に一重下線を付し、自身が筆頭著者の場合は（筆頭）と明記してください。
- ・各論文について、被引用回数を記入してください。

- ・業績の最後に合计数と、その内数としての査読付論文数、SCOPUS掲載論文数、Web of Science掲載論文数を記入してください。ただし、SCOPUS掲載論文数およびWeb of Science掲載論文数については、やむをえない場合はどちらか一方の記入でも構いません。(昇任人事の場合は、現職位から現在までの合计数を記入してください)。

5. 学会発表

- ・国際学会の場合は(国際学会)と、招待講演の場合は(招待講演)と、基調講演の場合は(基調講演)と、査読付の場合は(査読付)と、それぞれ記載してください。
- ・タイトル、発表年月、主催者・掲載誌名を記入してください。
- ・日本語以外の言語での発表・講演である場合は、タイトルのあとに(〇〇語)と明記してください。
- ・業績の最後に合计数と、その内数としての国際学会発表数、招待講演数、基調講演数、査読付数を記入してください(昇任人事の場合は、現職位から現在までの合计数を記入してください)。

6. 外部資金獲得状況(科研費、科研費以外の公的研究費、その他民間機関からの研究費等、いずれも研究代表者に限る)

- ・科研費：研究代表者として採択された研究課題について、種別、研究課題名、研究期間(年度)、金額(総額)を記入してください。
- ・科研費以外の公的研究費：代表者として採択された、日本学術振興会、J S T、N E D O、省庁・地方自治体などの公的研究費について、研究費名、研究課題、研究期間(年度)、金額(総額)を記入してください。
- ・その他民間機関からの研究費等：代表者として採択された、民間企業からの受託・共同研究費、民間財団からの助成等について、研究費名、研究課題、研究期間(年度)、金額(総額)を記入してください。
- ・業績の最後に合计数と、その内数としての科研費獲得件数、科研費以外の公的研究費獲得件数を記入してください(昇任人事の場合は、現職位から現在迄の合计数を記入してください)。

7. 研究活動における受賞歴

- ・学術賞等の受賞状況、特に海外の科学アカデミー等からの国際的学術賞の受賞があれば、賞の名称、授与団体・学会名、授賞年月を記入してください。

8. 特許・実用新案等

- ・内容、取得年月等について記入してください。

9. 日本以外の国における研究歴

- ・履歴書に記載のない特筆すべき研究歴がある場合、その研究に従事した期間(開始～終了)、概要、国名、所属機関等について記入してください。

10. 海外機関との共同研究等の実績

- ・実施時期、発表時期、従事期間等を記入してください。

11. その他研究活動上特記すべき事項

- ・各種財団の競争的資金獲得状況、研究業績・成果のメディアによる掲載など、上記項目以外の特記すべき事項があれば記入してください。

【教育研究業績Ⅱ：教育活動】

◆該当する実績がない項目は「該当なし」と記載してください。

◆すべての項目が「該当なし」の場合でも、必ず提出してください。

1. 教育活動における受賞歴、教育面での評価（ティーチングアワード等）

- ・受賞年月、概要、授与機関等について記入してください。

2. これまで担当した主な科目

- ・科目名、実施機関、担当年度を記入してください。

3. 直近3年間の論文指導学生数

- ・修士論文、博士論文の指導学生数を、主査・副査の別ごとに記入してください。

4. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)、日本語以外の教育歴

- ・実施年月、概要、実施機関等について記入してください。
- ・日本語以外の教育歴については、日本国内・国外を問いません。

5. 作成した教科書、教材、参考書

- ・題名、発行元、発行年月等について記入してください。
- ・日本語以外の言語で作成された場合、(〇〇語)のように明記してください。

6. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等

- ・発表年月、題名、発表箇所等について記入してください。
- ・日本語以外の言語での発表・講演である場合、タイトルのあとに(〇〇語)のように明記してください。

7. 教育方法に関するセミナー・研修等の受講歴

- ・受講年月、タイトル、開催団体等について記入してください。

8. 日本以外の国における教育活動歴とその言語

- ・履歴書に記載のない特筆すべき教育活動歴がある場合、その教育活動に従事した期間（開始～終了）、概要、国名、所属機関等について記入してください。

9. その他教育活動上特記すべき事項

- ・教育業績・教育方法のメディアによる掲載など、上記項目以外の特記すべき事項があれば記入してください。

【教育研究業績Ⅲ：専門分野に関する実務経験】

◆「教育研究業績Ⅲ：専門分野に関する実務経験」は、主に実務者が記入されることを想定した書式です。

◆該当する実績がない項目は「該当なし」と記載してください。

◆すべての項目が「該当なし」の場合でも、必ず提出してください。

1. 専門分野に関する実務経験

専門分野に関する実務経験について、期間、所属機関、資格・役職、業務内容について記入してください。弁護士・公認会計士等の資格をお持ちの場合は取得年月・登録年月を記入してください。

2. 専門分野に関する実務経験上、特記すべき事項

たとえば、以下のような特記すべき事項について、実施時期、発表時期、従事期間等とともにその概要を記入してください。

- ・司法研修所等の教官・教員等（法曹の場合）
- ・自身の研究や実務実績のメディアによる掲載・紹介
- ・研修会・企業内研修・セミナー・講演会等での講師、実習指導、教材作成への関与等
- ・大学の公開講座や社会教育講座における講師、シンポジウムにおける講演等
- ・研究会・ワークショップ等での報告や発表
- ・科研費の審査委員
- ・各種褒章・表彰の審査委員
- ・行政機関における調査官等
- ・調査研究、海外事情調査等
- ・大学との共同研究
- ・各種試験・審議会・行政委員会、各種ADR等の委員
- ・各種団体や組織の理事・役員等

※学会関係は「教育研究業績Ⅳ：所属学会、保有資格、その他」に記入してください

【教育研究業績Ⅳ：所属学会、保有資格、その他】

- ◆該当する実績がない項目は「該当なし」と記載してください。
- ◆すべての項目が「該当なし」の場合でも、必ず提出してください。

1. 所属学会・役職等

現在所属している学会等について、学会名、役職等、所属年月を記入してください。

2. 保有資格等

たとえば、以下のような資格、免許等で専攻分野に関連するものがあれば、内容・取得年月を記入してください。

- ・教員免許：種類・区分・教科を記入してください。
- ・危険物や化学物質等を取り扱うための資格等（特定化学物質等作業主任者、有機溶剤作業主任者、エックス線作業主任者、衛生管理者、危険物取扱者等）

3. その他

上記いずれの項目にも該当しない特記事項があれば、記入してください。

以 上

教育研究業績Ⅰ：研究活動

「記入要領」を参照のうえ、以下の項目順に記載してください。
※該当する実績がない項目は「該当なし」と記載してください。
※すべての項目が「該当なし」の場合でも、必ず提出してください。

1. 研究者情報

ORCID： 研究者番号： Researcher ID：

2. 著書

- ・「○○○○○○○○○○」2017.4 ○○出版
- ・（分担執筆）「*****」pp.89-105 2015.9 △△書店
- ・（共著）「□□□□□□□□」第3章 pp.26-54 2006.8 □□大学出版部
- ・「△△△△△△△△」2003.4 △△書房

合計10件

3. 修士論文・博士論文

- 【修士論文】「*****」2000.2 早稲田大学理工学研究科
- 【博士論文】「□□□□□□□□」2003.1 早稲田大学理工学研究科

4. 論文

- ・（査読付）「△△△△△△△△」2016.4 ○○学会
- ・（共著）（査読付）「*****」大久保太郎（筆頭）、戸山花子、本庄次郎 pp.123-145 2014.7
大学研究所
- ・（共著）（SCOPUS 掲載）「□□□□□□□□」pp.13-21 2012.12 △△出版
- ・「○○○○○○○○○○」2009.8 ○○学会

合計15件（うち査読付3件、SCOPUS 掲載論文3件、Web of Science 掲載論文2件）

5. 学会発表

- ・（国際学会）（招待講演）「*****（英語）」2016.5 第*回***学会
- ・（国際学会）（査読付）「△△△△△△△△（独語）」2014.11 国際△△学会総会 △△学会報告 vol.12
- ・（基調講演）「○○○○○○○○○○」2010.5 ○○大学○○研究会
- ・「□□□□□□□□」2009.1 第○回□□□□□学会

合計20件（うち国際学会2件、招待講演3件、基調講演3件、査読付5件）

6. 外部資金獲得状況（科研費、公的資金、民間団体研究費等、いずれも研究代表者に限る）

- ・JST さきがけ「○○○○○○○○○○」2015-2017 年度 1,200 万円
- ・科研費：基盤研究B「*****」2014-2016 年度 600 万円
- ・△△株式会社受託研究「△△△△△△△△」2012 年度 500 万円
- ・総務省委託事業「□□□□□□□□」2012 年度 150 万円
- ・科研費：若手研究「△△△△△△△△」2009-2010 年度 300 万円

合計 件（うち科研費 2 件、公的資金 2 件、競争的資金 3 件）

コメント [11]: 記入例は一例です。

コメント [12]: 直近のものを上に時系列で記入してください。3～6 も同様です。

コメント [13]: 単著・共著・分担執筆の別を記入してください。

コメント [14]: 共著・分担執筆の場合、執筆担当ページを記入してください。

コメント [15]: 共著・査読付き・SCOPUS 掲載・Web of Science 掲載の場合は記入してください。

コメント [16]: 共著者名は論文に記載されている順にすべて記載し、自身の名前に一重下線を付してください。自身が筆頭著者の場合、（筆頭）と明記してください。

コメント [17]: 共著の場合、執筆担当ページを記入してください。

コメント [18]: 国際学会、招待講演、基調講演、査読付等の情報を記入してください。

コメント [19]: 日本語以外の場合は、タイトルのあとに（○○語）と記入してください。

7. 研究活動における受賞歴

・ * * * * 学会論文章 (〇〇部門) 受賞論文「*****」2013 年

8. 特許・実用新案

9. 日本以外の国における研究歴

10. 海外機関との共同研究等の実績、その他研究活動上特記すべき事項

・ △△△△に関する研究について〇〇新聞にて特集記事掲載 (2013 年**月**日)

教育研究業績Ⅱ：教育活動

「記入要領」を参照のうえ、以下の項目順に記載してください。
※該当する実績がない項目は「該当なし」と記載してください。
※すべての項目が「該当なし」の場合でも、必ず提出してください。

コメント [110]: 記入例は一例です。

1. 教育活動における受賞歴、教育面での評価（ティーチングアワード等）

- ・ 2017 年度〇〇大学ティーチングアワード学長賞（〇〇大学△△学部講義「〇〇〇〇論」）

2. これまで担当した主な科目

- ・ △△△△特論（〇〇大学〇〇学部、2014～2017）
- ・ △△△△演習（〇〇大学〇〇研究科、2012～2016）

3. 直近3年間の論文指導学生数

年度	修士論文		博士論文	
	主査	副査	主査	副査

4. 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）、日本語以外の教育歴

- ・ 講義「国際●●論」においてオリジナル教材を作成。グループディスカッションを多く取り入れ、学生に考える習慣を教育。（△△大学△学部、2016～2017）
- ・ ●●学と▲▲科学を融合した教育を実施。●学、▲科学、□□学、〇〇学いずれの基礎教育を受けてきた学生でも〇〇〇〇学が理解できるよう、それぞれの基礎知識から他の分野に広がる工夫をしている。（〇〇大学〇〇学部、2016）
- ・ 毎時間報告書を提出させ、学生の理解度を確認するとともに授業改善に役立てている。（〇〇大学〇〇学部、2014～2016）
- ・ 英語学位プログラムにおける「〇〇〇〇」の講義を担当。外国人留学生に対して英語での講義を提供した。（〇〇大学〇〇学部、2015～2016）
- ・ 〇〇の授業において、メディアで話題となっているテーマや有名企業の決算を解説することにより、当該分野の基礎のない学生に興味を持たせる工夫を行った。（□□大学□学部、2013）
- ・ 所属する〇〇内において、□□チーム向けのセミナーの企画・運営とともに、講師として解説等を行い、〇〇内の基準の解釈等の教育に携わった。（△△監査法人、2014）
- ・

5. 作成した教科書、教材、参考書

- ・ 〇〇講義における反転講義コンテンツ（日本語・英語）の開発（〇〇大学△△学部、2015）
- ・ △△人材育成のための PBL 教材の作成（△△省、2008）

6. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等

- ・ 〇〇県教育委員会「〇〇〇〇〇〇〇〇人材育成の手法」（2015.9）
- ・ △△研究会「△△△△△△△教材の開発（英語）」（2013.6）

コメント [111]: 日本語以外での発表の場合、タイトルのあとに（〇〇語）と記入してください。

7. 教育方法に関するセミナー・研修等の受講歴

- ・〇〇大学 ファカルティ・ディベロップメント・セミナー（2017.9）

8. 日本以外の国における教育活動歴とその言語

- ・****大学（フランス、パリ）で客員教授として、いずれもフランス語で「〇〇〇〇」の講義、および博士課程学生に対して研究上の指導を行った。（2014.10～2016.8）

9. その他教育活動上特記すべき事項

- ・〇〇株式会社 社内教育「LSI 設計技術講座」講師（2014.10）
- ・〇〇学会 先端技術フォーラム講師「磁気ディスク装置の最新技術」（2014.7）
- ・△△社「月刊****」の特集記事において、〇〇教育の手法について記事掲載（2016 年**月**日）

教育研究業績Ⅲ：専攻分野に関する実務経験

「記入要領」を参照のうえ、以下の項目順に記載してください。
※本書式は主に実務者の方が記入されることを想定した書式です。
※該当する実績がない項目は「該当なし」と記載してください。
※すべての項目が「該当なし」の場合でも、必ず提出してください。

コメント [112]: 記入例は一例です。

1. 専門分野に関する実務経験

- ・〇〇弁護士事務所 弁護士（弁護士登録 2004.3、2004～2017）
（主な担当事件を記載）
- ・東京地方検察庁 検事（2000～2017）
（主な担当事件を記載）
- ・〇〇ボランティア協会 コーディネーター（2009～2016）
（具体的な活動内容を記載）
- ・金融庁〇〇課 専門官（2007～2015）
（具体的な業務内容を記載）
- ・監査法人〇〇事務所 公認会計士（公認会計士登録 1992.8、1995～2005）
（具体的な業務内容を記載）
- ・フリー・ジャーナリスト（1990～現在）
（具体的な活動内容を記載）

2. 専門分野に関する実務経験上、特記すべき事項

- ・公認会計士試験 試験委員（H23 年度試験～H26 年度試験）
- ・日本公認会計士協会 各種委員
 - ・監査基準委員会（2006.8～2014.7）
 - ・監査・保障実務委員会（2006.8～2014.7）
 - ・会計制度委員会（2010.10～2013.7）
- ・司法修習生指導補佐官（東京地裁、2015.4～2017.3）
- ・文部科学省〇〇育成事業（2016.4～2017.3）
- ・総務省 行政イノベーション委員会 委員（2014.11～2015.6）
- ・科学研究費補助金 審査委員（2004.4～2006.3）
- ・〇〇新聞社 紙面審議会 委員（2000.4～2002.5）
- ・財団法人〇〇記念財団 理事（1999.4～2006.3）
- ・NPO 法人 〇〇〇〇 理事（2001.8～現在に至る）
- ・**テレビの番組「△△△ニュース」に出演 〇〇分野の専門家として*****に関して解説（2016 年**月**日）

教育研究業績Ⅳ：所属学会、保有資格、その他

「記入要領」を参照のうえ、以下の項目順に記載してください。
※該当する実績がない項目は「該当なし」と記載してください。
※すべての項目が「該当なし」の場合でも、必ず提出してください。

コメント [113]: 記入例は一例です。

1. 所属学会・役職等

国際□□学会（2004.9～）
日本○○学会（2002.4～）
・編集委員（2005～2006）
・副会長（2012～2013）
日本△△学学会（1999.4～）
・第64回日本△△学会大会実行委員長（2009）

2. 保有資格等

3. その他